

## 第2回 あきる野市総合計画審議会 議事録

日 時：令和元年8月22日（木） 午後3時～5時

場 所：あきる野市役所別館 3階 第一会議室

出席者：会 長 菊地 俊夫 副会長 横倉 三郎  
委 員 甲野 富和 委 員 網代 和夫  
委 員 大久保春彦 委 員 坂本 勇  
委 員 安永 勝昭 委 員 影山 守彦  
委 員 松村 博文 委 員 立花 晋也  
委 員 倉田 克治 委 員 伊東 満子  
委 員 野島 健也 委 員 吉田榮久夫  
委 員 櫛 敏男 委 員 多田 恵子  
委 員 町田 修二 委 員 青木 且治  
委 員 松野 利美（代理：足立）

（欠席者：田野倉美保委員、齋藤孝委員、近藤怜美委員、下村智委員、吉田正幸委員）

### 1 開会

（事務局）

ただ今から、第2回あきる野市総合計画審議会を開催する。

本日はご多忙の中、会議にご出席いただき、感謝申し上げます。本日の会議について、田野倉委員、齋藤委員、近藤委員、下村委員及び吉田正幸委員から欠席の連絡をいただいている。また、東京都行政部の松野委員の代理で足立様が20分ほど遅れるとのことである。

### 2 会長挨拶

（会長）

暑い中、そしてご多忙の中、お集まりくださり、感謝申し上げます。このような会議は、よく聞き、話し、考えるということをモットーに進めていきたいと思う。遠慮なく言いたいことを述べていただきたい。

### 3 議題等

#### （1）あきる野市の現状について

【事務局から、資料1を用いて、あきる野市の現状について説明した。】

（委員）

前回、そして事前にお配りした資料に対して、ご質問やご意見等はあるか。

（委員）

資料1の4ページに土地利用状況とある。この中で、「公共施設等」が649haとなっており、農

地よりもたくさんあるが、公共施設には、道路や鉄道等も含まれているのか。

(事務局)

市役所のような公共施設や道路等が含まれるが、鉄道は含んではいない数字である。

(委員)

農地よりも多いのか。

(事務局)

公共施設等の中には、道路の他、公園等も含まれている。それらを全て累計すると、農地よりも面積が多くなる。

(委員)

道路が多いということか。

(事務局)

そのとおりである。

(委員)

現行の総合計画を策定する審議会に参画したが、当時は審議委員が多く、全体で審議するのもよいが、突っ込んだ話をするためには専門部会（都市・産業・生活部会と、福祉・教育部会）を分けて審議した方がよいのではないかという提案があり、二つにわかれて議論を行った。今回の審議会は2年間にわたって開催するので、専門部会といった形式をとる予定があるのかどうかをお聞きしたい。

(事務局)

令和元年度は基本構想、全体像について審議をしていただくことを目的としており、専門部会等を設ける予定はない。令和2年度は、基本計画の具体的な事業等を検討いただくもので、現段階では専門部会を設ける予定はないが、審議会の議論において、専門部会を設けるべきだという話になった場合は、来年度の体制について考えさせていただきたい。

(委員)

専門部会を設けて行うのなら、私や副会長もそれぞれ専門があるので、分かれて審議することも可能である。

(委員)

強み・弱みということで、前回資料の中に基礎調査報告書があるが、この中に市民アンケートに基づく調査結果が掲載されている。施策に対する満足度・重要度という表現にはなっているが、これらの分析は強み・弱みに取り込まれてないのか。

(事務局)

あくまで今の市の施策に対する評価であり、別の取り扱いである。次年度以降の特に細かい基本計画の検討材料として使わせていただく認識である。

(委員)

強み・弱みの中に施策の満足度・重要度が出てきていないことと、現状について、丸数字で補足されたものは関係していないのか。

(事務局)

これは、データから見た部分と、実際に市民の意見としての補足で掲載させていただいている。

(委員)

強み・弱みという仕分け、例えば健康寿命は強みになる部分であり、大変よいことだが、健康寿命が長いのはなぜか、データに基づいた理由が知りたい。気候や地域性といったところに切り込んだ集計や分析をしていただきたい。それぞれの項目を細かく見ていないので、事務局で精査して作っていただければと思う。もう1点は、満足度・重要度というのは何に対して満足しているのか。そういうところに切り込んでもらいたいと思う。

(事務局)

なぜなのか、という原因分析はかなり難しい部分がある。市の取組として実施しているから、という理由付けができるものもあるが、市民の実感を聞いてみないとわからない部分もある。定性的な話も含めて、仮説的になるかもしれないが、可能な範囲で補足をしたい。

満足度・重要度は、定期的実施しているアンケート調査の中で、各施策のタイトルを示し、それに対してどれぐらい自分の日ごろの実感として満足しているか、重要と思うかをお答えいただいている。すべての方々が同じ尺度で考えているかといわれると難しい部分があるが、ある程度の人数をとって統計的に処理をすることで、大体この範囲に収まっているだろうという説明ができるアンケート設計となっている。ただし、評価の理由については、市民ワークショップの過程において本市の強みや弱みを把握する中で、例えば弱みの部分だと、不満が高い項目とかなりリンクしてくると考えられるため、深堀りすることができると考えられる。

(委員)

今のやり取りについては副会長の専門かと思うがいかがか。

(委員)

私の専門は生体工学や福祉工学である。あきる野市は、今でいう限界集落、過疎的なまちである。そういう地域においては、自ら時間を決めて、天候等を考慮に入れながら日常生活を営む必要がある。そのような機会が多いと脳血流がよくなり、ベータアミロイドと呼ばれるたんぱく質が脳から流れ出ること、認知症になりにくいということが研究によってわかりつつある。

また、あきる野市は都心の中でもコミュニティが非常によい。普段から、近所の家を行き来し、住民同士で情報交換等を行うことにより、高齢になっても元気であると考えられる。高齢者が1人あるいは2人暮らしであっても十分生活ができる度合いが、比較的東京都の中でも高いと思う。さらに、農園や農地で作業する人達は健康年齢が高いということもわかりつつある。

一方で、地方に行くと医療機関が少なくなるが、あきる野市は都内ということもあり、地方と比べると福祉施設、医療機関が多いことも強みになると思う。

(委員)

そういったことを知りたかった。ぜひワークショップを活用し、市民の皆様の思いを把握してほしい。

(委員)

ワークショップだけではなく、市職員が、地域ごとの特徴的な場所に行って、聞き取り調査をしてみると、一段と深堀りができる。

(委員)

地域の市民交流がすごくよいという話があったが、私たちは全然そうは思わない。今まで自宅

の周囲に建物が沢山できたが、そこに新しく来た人は挨拶をしない。だから、周りに誰が住んでいるのかが把握しにくい。隣に住んでいる人は、自治会にも加入していないと思う。そうした実情も踏まえていただきたい。

(委員)

弱みの中で、高齢化の進展等に伴う市民活動の停滞とある。これは、市役所職員のアンケート結果から出ている。我々から見ると、地域社会の中心的な担い手や発言者は高齢者である。市役所職員はその点が把握できていないのではないか。例えば、町内会において盆踊り、お祭りの際に舞台を作るといっても、高齢者の担い手が多い。そうした実情をきちんと把握していただきたい。

(事務局)

前回の審議会の際にもご説明を差し上げたが、当該アンケートは全職員を対象に総合計画を策定するにあたり行ったものであり、事務局としても弱みの中にご指摘のような意見が出ていることに、非常に驚いた次第である。地域の現状をよりの確に把握するため、今年度は職員向けのワークショップも行ったが、今後職員に対して、意識改革を一層促してまいりたい。

(委員)

盛んに地域活動へ取り組むことができる高齢者はかなり多い。退職後、60歳過ぎてから70歳までも一生懸命活動するような、活力のある人もいる。高齢者の活躍できる時代になっているのではないか。

(委員)

現在提示されている強み・弱みの整理は参考と捉えていただくことが望ましいのではないか。強み・弱みといっても見方を変えればどちらにも解釈することができる。今後実施する市民ワークショップの結果も踏まえてあきる野市の活かしたい魅力等をくみ取っていただきたい。

また、強みや弱みの原因を深掘りすることで、よりよい計画づくりができると考えられ、今年度は特に俯瞰的にとらえる段階である。次年度については、先程ご意見があったように必要に応じて部会形式で突っ込んだ議論をすることもよいのではないか。他に何か質問等はあるか。

(委員)

あきる野市の現状の中で、健康寿命に関する分析があるが、比較対象となる都市の大半は人口規模があきる野市と同程度であり、差があるといっても有意な差なのか。

(委員)

ここでいう健康寿命とは、同じ年齢でも要介護等の認定がない人、要するに、介護を受けなくて、元気でいられる人のことを健康という。それが前提であり、比較すると同じ年齢でも、介護を受ける人が非常に少ないという解釈ができる。

(委員)

この資料の意図は何か。

(事務局)

前提として、比較分析をする際は、ある程度、人口だけではない他の要素を含め、似ている地域で比較しなければわからないことがあるという点についてご理解いただきたい。

(委員)

先程の認知症のお話の中で、ストレスという言葉が入っていなかったが、健康寿命の延伸とストレスに関係はないのか。

(委員)

ストレスも影響するが、先程の説明はアルツハイマー型認知症についてである。もちろん、ストレスは情緒不安等、心理的な影響があるため、ストレスはない方が生活面ではよい。

(委員)

恵まれた自然環境というのはいい、ということではないか。

(委員)

ご認識のとおりであり、自然環境はストレス等と関係するものである。

(委員)

先程話題にのぼった町内会や自治会について、加入するかしないかという二分論、加入を強制するのではなく、もう少し自然体で構えた方がよいのではないか。例えば、近所に新たな建売住宅が数軒できたとして、まとまって住宅ができると町内会や自治会へ加入しようと思う方もいるが、昔からの住民の方と隣接するような住宅の場合は加入しにくい印象がある。

(委員)

高齢者のいるところに新たに戸建ての家ができると、新たに引っ越してきた方は地域へ入りづらいつ感じ、既存の自治会のやり方を押し付けられるのではないかという意見があるのではないか。一方で、最初のうちに入らなくても、お子さんが子ども会等に入り、子ども同士で交流し始めると、だんだん親同士も交流してなじんでいくという話もよく聞く事例である。

(委員)

この議論はタウンミーティングの結果を踏まえ、引き続き議論したい。

## (2) タウンミーティング（ワークショップ）開催の概要について

【事務局より、資料2を用いて、タウンミーティング（ワークショップ）開催の概要について説明した】

(委員)

今の説明に対して、ご質問やご意見等はあるか。

(委員)

参加者の属性について、30代が極端に少なく、西部地区が1名、それ以外の地区はいないという現状をどのように考えるのか。30代は特に子育てに関わっている世代であり、意見を把握することが重要と思われるが、ワークショップにおいてそうした世代の意見を聞くことは難しいのではないか。

(事務局)

既存の市民参加の機会と比べても、子育て世代も含めた若年層の参加が少ないことは共通の課題であると認識している。今回は募集にあたり、各地区1,500人ずつ抽出し、招待状を送る形で案内を差し上げるとともに、子育て世代の参加を促進するため、幼児の一時預かりサービスも提供することで、実際にサービスを活用してワークショップに参加される方も現れている。

また、ワークショップとは別に、平成30年度に実施した市民アンケート調査、今後実施予定のパブリックコメント等から幅広い世代の声を把握したいと考えている。

(委員)

ワークショップに参加する方の意見だけではなく、アンケートやパブリックコメント等も踏まえて、幅広い意見を捉えた計画づくりを心掛けていただきたい。

(委員)

ワークショップ参加者を募集する際、男女、年代の割合は考慮しているのか。また、先程の議論にも関係するが、元々あきる野市に住んでいる方と引っ越してきた方の割合はどうか。可能であれば半々ぐらいの割合が1番よいがどうか。

(事務局)

居住年数等は把握していない。ワークショップの中で把握できればご報告する。

(委員)

ワークショップの募集にあたり、障がい者の方へのどの程度送付したのか。

(事務局)

一定の数を決めて招待する、といったことは行ってはいないが、招待の際、手話サービスを設けるといふご案内は差し上げている。

(委員)

参加者の中で、何名の方が該当するのか。

(事務局)

手話サービスの申し込みはなく、特設事務局では把握していない。

(委員)

追加募集はあるのか。

(事務局)

ワークショップは各回の検討成果を積み上げて行う形式のため、途中から参加したい等といったお話があれば検討するが、追加募集は現段階では考えていない。

(委員)

現行計画を策定する際は、地区別に説明会を実施したが、地域によって参加者が少なく意見も少なかったため、今回はぜひ内容の濃いものになるようにしていただくとともに、先ほどの指摘にもあったように、幅広く意見を集めるため、パブリックコメント等をやっていただければよいのではないか。

(事務局)

招待状を出して参加者を募る方法は市として初めて実施した。参加者が集まらないのではないかと不安もあったが、結果的には全地区で送付者の1% (15人) 以上の方から手が挙がった。募集人員30人に照らすと決して多くはないが、積極的に参加いただけることをありがたく思う。一方で、ご指摘にもあったが、ワークショップには参加できないが意見のある方もいらっしゃるため、パブリックコメント等で意見を拾い上げていきたいと考えている。

(委員)

市民意見を聴取する際、例えば市の主要施策を例示して意見を募る方法もよいのではないか。

要望書を出すと行政は財政的な制約について言及することが多いが、例えば現在実施している学力ジャンプアップ事業を例にとり、他の地域と比べて学力が優れている環境になれば、過疎が進む地域でも人が集まるということになっていくと思う。本日の資料には教育に対しての言及がないようであるから、可能なら入れていただければと思う。

(事務局)

ご指摘のとおり、財政的な制約はあるものの、一方でこれまでも特に必要な事業については予算を投入しており、教育面についても同様である。ワークショップにおいては、これまでに言及のあった市の強み・弱みを総合的に捉えて、多角的に意見を伺いたいと考えている。

(委員)

ワークショップの意見は審議会の検討資料としても重要である。希望としては、とりまとめた資料だけではなく、各回で議論された内容を直接確認できるローデータも提供いただきたい。

(事務局)

承知した。事前にお申し出があれば、ワークショップの様子を見学できるように調整をさせていただくことも可能である。

(委員)

希望があれば、事前に事務局へ問い合わせさせていただきたい。

### (3) 基本構想について

【事務局より、資料3を用いて、基本構想について説明した】

(委員)

今の説明に対して、ご質問やご意見等はあるか。

(委員)

基本構想はまちづくりの最上位の方針を示し、都市整備や産業振興等、分野別の大綱を設定している。そして、それらの分野ごとに個別の行政計画を策定されているが、総合計画と計画期間が必ずしも一致しない場合もあると思われる。総合計画と個別計画の整合性はどのように取るのか。

(事務局)

ご指摘のとおり、市には多くの行政計画があり、総合計画の計画期間に合わせ、今年度もしくは来年度策定に取り掛かる計画も多いことから、総合計画の策定状況は庁内にて共有し、矛盾が生じないように調整を図る。既に総合計画の施策の検討にあたり、各課の課長級が参加する専門部会を設置しており、専門部会での議論の過程で個別計画の取組状況等を共有している。

また、行政計画は年度末の3月に策定することが多いため、総合計画の策定期間を令和2年12月頃に設定し、タイムラグを生じさせることで調整を図る予定である。一方で、総合計画の計画期間と必ずしも合致しない個別計画もあるが、それぞれの計画の改定時に、総合計画に掲げる方針や施策等と整合を図ることを考えている。

(委員)

しっかりと調整いただきたい。例えばあきる野市の都市計画を定める都市計画マスタープランの上位計画として総合計画は位置付けられており、両計画で整合が図られなければ意味がない。

重ねて総合計画と個別計画の整合を図ることをお願いしたい。

(委員)

総合計画を来年の12月頃に策定されるということであるが、今年度予定されている市長選において市長が打ち出す公約は、本会での検討及び基本構想に対してどのような影響を与えるのか。

(事務局)

前提として、市長は選挙を通じて多数の市民から選ばれた市民の代表である。現時点において具体的な公約内容について想定することはできないが、公約を掲げて多数の市民が支持をした結果として市長が当選するのであれば、そうした事実を踏まえて審議会においても議論いただく必要が出てくると思われる。

(委員)

他に何か質問はあるか。先ほどの説明の中で、現行計画の将来都市像への言及があったが、本審議会においては次期計画の将来都市像について、様々な意見を踏まえて検討する必要があると思われる。次の議題を検討した後、残りの時間を使って、まずは委員の皆様の将来都市像に対する所感をお伺いしたい。

#### (4) 現総合計画の施策の進捗状況について

【事務局より、資料4を用いて、現総合計画の施策の進捗状況の説明を行った】

(委員)

今の説明に対して、ご質問やご意見等はあるか。

(委員)

随所に緑という言葉が出てくるが、宅地開発により緑が失われていると感じる。宅地開発の規制も必要ではないかを感じる。町田市では80坪未満の宅地開発を規制したことがあると聞く。緑を守り、また転出等で建物がない土地も増えているので対策が必要と思われる。

(事務局)

緑は本市の大きな魅力であると同時に、ご指摘のとおり、まちづくりの観点から見ると、宅地と緑のすみわけは大きな課題である。近年では特に自然の緑だけではなく、市街地の緑をいかに確保するかということにも注目が集まっており、施策の検討においてご指摘の内容も踏まえて考えたい。

(委員)

進捗状況の中に市民の満足度や重要性が記載されているが、満足度や重要度を測る際には施策の進捗状況を示すことが必要と思われるがどうか。

(事務局)

満足度や重要度を把握する際、進捗状況というより、それぞれの施策に対してどう感じているかという聞き方をしている。

(委員)

そうであるとすれば、進捗状況というタイトルには違和感を覚える。

(事務局)

満足度や重要度自体は進捗状況を直接示すものではないと認識しており、あくまで施策の進捗

状況を見る上で、市民目線からの見え方を参考として掲載している。

(委員)

現行計画策定の際も、計画策定後の進捗状況の把握について議論になったが、策定後は審議会も開催されず、進捗の把握ができなかった。資料4のような「現基本計画の施策の進捗状況について」のような取組状況が分かるものがあれば良かった。例えば圏央道インターチェンジ付近の土地利用の転換の推進を見ると、策定当時は富士通、デック、横河電機等の工場誘致の話が出ていたが、時代の変化の中で工場等は撤退していった。20年の中で大きく状況が変化してしまった。

一方、ごみ処理の問題に目を向けてみると、20年前は、ごみを処理するには、地域の集積場に持っていったが、他地域のごみも入り込み乱雑であった。今は個別収集になっており、ペットボトルの収集もコンビニに設置された収集所から、分別で個別収集されている。これは、市民目線から見ると計画案の効果が非常に分かりやすく現れ、改善されていると思う例である。このように、計画当初策定された状況と現状の進捗を比較して、今後の方向性を検討するようにすべきではないか。

(事務局)

現在の総合計画には進捗管理の仕組みがなく、施策等の取組について、個別計画や各担当課の業務に進捗が委ねられてしまっており、本日お示しした進捗状況は、数値目標の変化等ではなく、文言で整理をさせていただいたという経緯がある。総合計画策定方針にも掲げているが、次期総合計画においては証拠や根拠に基づき、目標や指標整理をして事象効果を評価しやすい仕組み作りを目指すものである。

(委員)

行政が手厚く住みよい環境を整備しすぎることには懸念がある。行政サービスを何でも無料でやってしまうと、その負担は誰が負うのか。ある程度の自己負担は必要であり、厳しい姿勢を打ち出すべきではないか。

(事務局)

ご認識のとおり、今後のまちづくりを考える上で、行政単独ではなく、市民、事業者、各種団体等と一緒に取り組むことが必要であると考え。例えば、タウンミーティングの第3回では将来像の実現に向けて市民ができる、やるべきことは何かという視点で検討をいただく予定である。こうした機会を通じて、行政主体ではなく、市民の皆様にも主体的にまちづくりに関わっていただくという考え方を持っていただけるようにしたいと考える。

(委員)

進捗状況の見方として、左側は取組状況、右側は市民の満足度や重要度、それらの相対的な順位が記載されていると思う。順位を見ると、満足度の上位は自然、環境、教育、高齢者の健康が挙げられている一方、重要度の上位に財政が挙がっており、財政の満足度は必ずしも高くはない。こうした結果も踏まえ、次期総合計画を検討するにあたり市民の施策に対する認識を捉えていくことが望ましい。

(事務局)

資料の補足であるが、資料4は速報としてお受け止めいただきたい。庁内で精査する過程を経て若干変更が発生する可能性がある。その際には改めてご報告申し上げます。

(委員)

議題は以上であるが、先ほど述べたように、残った時間で将来都市像について自由に意見交換を行いたい。

(委員)

現在掲げている「人と緑の新創造都市」を継承するのか、軌道修正を図るのが論点になるかと思う。先程の説明にあった都市間比較を踏まえ、他の自治体において既存の将来都市像をどのように取り扱って計画策定を進めているのかといった情報があるとよいのではないかと。キャッチフレーズについては現時点では思い浮かばない。

(委員)

あきる野市は人の移動が少なく、観光に課題があるので、若い人が行き交う都市を目指して、例えば、市内に点在している体育館や運動広場を集約し、市外からの移住が増えるような都市計画を目指すべきではないか。また、観光資源が豊富ということであるが、秋川を利用したサイクリングロードやハイキングコースの整備を進めることで観光を活性化させることがよいのではないかと。

(委員)

キーワードとしては、自然は外せないのではないかと。また、スピード感のある施策、事業の実施も重要ではないか。さらに、笑顔があふれるまちづくりも重要な視点であると考えている。具体的に考えると、人生100年ともいわれる背景を踏まえた高齢化への対応、共働き世代の支援、情報化社会の推進等が挙げられるが、いずれも財政基盤の充実が基本にあると思う。

(委員)

現在の将来都市像は正直ピンとこない。むしろ合併前の五日市町の「清浄都市五日市」、秋川市の「スポーツ宣言都市」は今でも覚えているので、こうした感覚を大事にしたい。

(委員)

東京都の西部地域の自治体は概ね抱えている課題が共通であり、対策も似たようなものになりがちであるように思う。今日の議論の中でもあきる野市の魅力として緑が挙げられていたが、観光客が武蔵五日市駅に到着するとバスで檜原村へ直行して緑に親しんでいる現実もあり、経済的な側面から見た時に果たして魅力といえるのだろうか。市が主要施策として挙げている項目の一つひとつを取り組み、市民へアピールすることが重要ではないか。

ちなみに行政にお尋ねするが、あきる野市の昼間の人口比率はどのくらいか。高齢者が多くて、昼間人口比率が高いのであれば、生産性が低いということを意味していると思われるので、その対策をどうするのかといったことがこの場で議論されるべきではないか。

また、教育について考えると、子どもに対して先行投資を行い、学力が向上すれば、子育て世代の移住も増えるのではないかと。あるいは市内には立派な病院があるのに、他市の医療機関に受診している方も少なくはないので、医療の充実も魅力あるまちづくりを進めていく上で重要な点である。

(委員)

昼間人口の比率については後程、情報提供をいただきたい。引き続き、各委員からご意見を伺いたい。

(委員)

税金や社会保険料の負担といったことを認識できるような施策を盛り込んでいただきたい。

(委員)

市内には 11 の商店街、商店街連合会有るが、商店街として機能しているのは 7～8 程度で、残りは個店レベルで頑張っているという現状があるように思う。将来のことを考えた時、現状では企業が市内へ移転してきているが、いつまでそうした状況が継続するのかわは不透明である。現状の課題について商業の視点から見た場合、若年層はインターネットで購入するか、週末にスーパーやデパートでまとめ買いをする一方、一人暮らしの高齢者は買い物に不自由していることも目立ち、そのギャップをいかに埋めるかが重要であると考えてる。

また、市内には都立高校が 2 校、私立高校が 1 校あるが、大学は設置されていない。背景には交通アクセスの不便さが挙げられると思われる。余談ではあるが、長野県の親類と東京駅で待ち合わせした際、都内に住む私達よりも親類の方が早く到着するほどである。もちろん、交通アクセスを考える上では、JR だけではなく新交通といった視点も含めて検討することが必要ではないか。

さらに、あきる野市は観光地であると言われているが、地元の方が必ずしもそうした意識を持っていないと感ずることがある。例えば、観光客と思しき方が訪れると、店員の第一声が「いらっしゃいませ」ではなく「何、誰」というお店も見受けられ、おもてなしをする体制が整っていない。周辺地域の商工会関係者と意見交換をする機会があるが、合併から 20 年近く経過してもなお、あきる野市の知名度はまだ低く、サマーランドの名前を出すと、やっとなイメージが湧くようである。あきる野市の魅力を発信し、知名度を高めることを考えないと、訪れる方も増えない。その意味で、先程のご意見にもあったが、現在の将来都市像はピンとこない。

(委員)

あきる野青年会議所では 10 年に 1 回、運動指針を作っており、現在の指針は策定から 3 年が経過しているが、青少年育成事業、地域復興等、地域だけではなく国際的な内容も盛り込んでいる。来年の東京オリンピックに向けてムードが高まる中で、訪日外国人観光客数も増加傾向にあり、訪日外国人を含む観光客をさらに市内へ呼び込むことは重要である。そのためには地域社会の活性化が必要であると考えてる。先程のご発言にもあったが、商店街の活性化は急務であり、豊富な観光資源を有している一方でうまく発信できていないという課題に取り組む必要があると感ずる。まずは、住み続けたいまちづくりになるようにするためには、地域の社会問題について、特に市民アンケートで満足度が低い分野に対応していくべきだと思う。

(委員)

町内会・自治会が強みに挙げられていたが、むしろ弱みだと感ずる。その理由の一つには子どもが市外へ転出し、核家族化が進行している点が挙げられ、そういったことを解消できればと感ずている。私は「向こう三軒両隣」という言葉が大好きであり、高齢者、若者を問わず、横のつながりを作りたいと思っている。最近聞いた話として、社会福祉協議会のケアマネージャーに寄せられた相談例を紹介したい。相談者は親と同居しており、親を施設に入居させたいが、社会福祉協議会から親へ施設入居を勧めてほしいという趣旨であった。本来的にはまず家族間で話し合うべき内容であると助言したが、理解してもらえなかったということであり、このようなことを

なくすために「向こう三軒両隣」を実現したいと思う。

(委員)

私は趣味として健康づくりに取り組んでおり、これまでは市民が一体になって、夜明け歩きやスポーツレクリエーション大会等、健康をつくるような取組を実施してきた。しかし、取組の中心となる層が高齢化し、次の世代に引き継いでもらいたいとは思っていたが、うまく引き継がれず、取組は消滅してしまった。

一方で、平成17年以降、健康づくり市民推進委員会を中心に町内会・自治会等と連携して、地域イキイキ元気づくり事業を展開している。子どもから高齢者までが参加できて、教養を学ぶことが出来る、そうした場がたくさんあるまちを目指すべきではないか。

(委員)

かつて秋留台地に工場を誘致しようとしたが、経済状況等の影響もあって実現せず、地主に土地を返納した経緯がある。また、東京都内で多摩ニュータウンの次に大きな集合住宅を造成するのは秋留台地であるという構想があったとも聞いている。企業誘致を進めるのか、あるいは人口増を目指すのかは非常に難しい判断である。企業誘致を進めても、経済情勢の変化に伴い、あっという間に移転してしまう現実がある。私は自然体で臨むべきと考えている。JR五日市線の複線化という話もあったが、今では30分に1本の運行となっており、移住や定住を望むことは難しいので、そういったところから少しでも、改革をする必要があると思う。

(委員)

私は市外から越してきたよそ者である。あきる野市に住もうと思ったのは先程話題にのぼった、「スポーツ宣言都市」に惹かれたことにある。市内でスポーツ関連の活動に取り組んでおり、スポーツを通して多くの方と交流が深まっている。その中で、一旦はあきる野市へ移転してきたが後に撤退を決めた企業に勤める方とお話をしたことがある。その方いわく、撤退は残念であるが、従業員の大半が市内に住んでいないこともあり、撤退には皆賛成したということであった。

この話からわかるように、住みやすいまちづくりが極めて重要であるといえる。現在はパソコン1台あれば起業できる時代であり、まずは人が増えれば、企業も移ってくると思われる。そのための方策はいろいろあるが、決め手はなかなか見つけられないので、優先順位をつけながらアイデア出しをしたいと思う。

(委員)

あきる野市の最大の魅力は自然が豊かで環境が大変よい点にあると思う。秋留台地の話も出ていたが、農振法で開発が抑制されていると思うものの、本来は大学・高校・研究機関・養護施設等を誘致して、その近辺に居住地域を設け、昼間人口を増やし、バランスのとれた文教福祉都市を目指すことが望ましいと思う。そのためには交通体系の不便さを克服する必要があるのではないかと。JR五日市線の複線化の話もあったが、実際には減便という事態である。都では多摩都市モノレールを瑞穂町まで延伸することを計画しているが、さらに、あきる野市や八王子市まで延伸して連環するような都市づくりがあるので、構想するべきではないか。

かつて、「スポーツと音楽のまち」というキャッチフレーズが掲げられていたが、市民がスポーツをしている姿もあまり見かけなくなったように思う。スポーツ活動の活性化を図ることで若者も巻き込んでいけるとよいのではないかと。

(委員)

自然豊かで過ごしやすいというイメージはあるが、実際に自分が子育てをする中で、自然は豊かであるが子育てのしやすさはあまり感じなかった。資料4に記載されている子育て施策の満足度と重要度の順位を見ると、満足度は22位で、重要度は8位であり、子育てを重要視している方が多いと受け止められる。

しかし、資料4に記載されている事業を見ると、待機児童の解消や児童の一時預かり等、子どもと親を離す事業が目立っている。これらの事業だけが、子育て支援における事業ではないと感じる。人口増を目指すのであれば、1人あたりの出生率を高めるのは難しい部分があるため、移住をいかに増やすかが重要である。持ち家の購入を考えるきっかけとして結婚や出産が大きいため、移住を促進するには子育て環境が充実していることをアピールすることが重要である。

計画策定にあたり、市民から様々な意見を聞く段階だと思うが、子育て世代のニーズや子育て支援策として不足していることを把握する機会を別途設けることが望ましいと思う。子育て世代は自分の意見を市政に届けるための時間を確保することが極めて難しいので、子育て支援拠点等へ出向き、子育て世代の意見を聞き取る工夫が必要である。

今後、あきる野市が目指すイメージとして、子育て世代が緑豊かな環境の中で子育てを楽しむことができるという方向がよいのではないか。子どもを預けるだけでなく、親子の時間を共有するような子育て支援という発想を持っていただきたい。

(委員)

時間を超過してしまったので、今回ご意見を伺えなかった方については、次回の審議会で改めてご意見を伺えればと思う。今後もこうした議論を重ねて、じっくりくる将来都市像のキーワードづくりを行いたい。皆さんが他の地域に出向いた際、自慢できるような将来都市像をつくりたい。最後に事務局から連絡はあるか。

(事務局)

第3回の審議会は、会長と副会長との調整の上、10月29日の開催を予定している。時間は午後1時を目途に調整しており、改めてお知らせする。なお、会場は当会場を予定している。

また、第1回審議会の議事録案ができあがったので、お帰りの際にお渡しする。指摘事項等がある場合、今月中にご意見をいただきたい。指摘事項等がなければ、市のホームページへ掲載する。既に第1回審議会の資料等は掲載している。

#### 4 閉会

(事務局)

長時間のご議論、感謝申し上げます。以上で第2回あきる野市総合計画審議会を終了させていただきます。